

平成23年度病害虫発生予報第9号(12月予報)

＜お知らせ＞ 平成23年3月末をもって、北部駐在は閉所となりました。
防鳥ネット設置によるレタスのシロガシラ被害対策についてのコラムがあります
(13ページ参照)。

今月のトピックス

イネヨトウ(さとうきび)

学名 : *Sesamia inferens*



芯枯れを起こしたさとうきび

幼虫による食害痕



イネヨトウ幼虫



イネヨトウ成虫



ズイムシサムライコマユバチの繭と寄生された幼虫



ズイムシサムライコマユバチ成虫

生態と被害

沖縄では年6～7世代を重ね、周年発生する。1雌当たり400～700卵を産卵(25℃条件下)し、ふ化幼虫は集団で葉鞘内を食害後、2～3齢になると分散し茎に食入する。幼虫は5～7齢になり、茎や葉鞘内で繭を作り蛹化する。

さとうきびでは、生育初期に芯枯れを生じさせ、生育後期では台風等による折損や赤腐病の発生を助長するが、生育後期には芯枯れが生じにくいため、被害が見えにくい。また、さとうきび圃場内外のイネ科雑草も本種の発生源となる。

本種の天敵にはズイムシサムライコマユバチが知られており、8月に最も寄生率が高くなる。

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>